

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.93

2015.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.93 目次

平成 27 年度総会報告（収支報告）	2
WRV・役員の再任および新任について	3
WRV・各支部役員の一覧	3
WRV理事就任のご挨拶	4
野生動物救護獣医師協会・鹿児島支部の設立にあたって	5
施設紹介ー山梨県鳥獣センター	6-7
施設紹介ー福島県鳥獣保護センター	8-9
平成 27 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」	10
金坂 裕先生・環境省自然環境局長賞を受賞	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

平成27年度総会報告（収支報告）

平成27年3月28日（土）に平成27年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、平成26年度収支報告・平成27年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告（特定非営利活動）

平成26年度収支報告書（平成26年1月1日から平成26年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	1,178,000	事業費	
事業収入	540,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	435,999
委託事業収入	9,057,700	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	7,057,686
寄付金収入	43,797	④野生動物の傷病予防に関する事業	13,324
預金利息	6,643	⑤生物多様性の保全に関する事業	7,294
雑収入	242,100	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	200,177
収益事業収入	144,950	⑧収益事業原価	57,500
		管理費	2,152,894
		租税公課（消費税）	0
当期合計金額	11,213,190	当期合計金額	9,924,874
当期収支差額	1,288,316		
法人税等充当金	-70,000		
前期繰越収支差額	34,486,233		
次期繰越収支差額	35,704,549		

<平成26年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業（水鳥救護研修・情報整備事業等）
- ・同請負事業及び東京都の協力による現地研修（東京都小笠原村父島）の実施
- ・日本獣医生命科学大学、東京環境工科専門学校 等委託特別実習の開催
- ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集約、学会参加等
- ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施（共催）
- ・ボランティア向け講習会の開催
- ・関係団体との事業協力および事業への参加（本部、各支部）
- ・学術講習会の開催（東京都支部、本部）
- ・動物感謝デー、東京港野鳥公園フェスティバル等に出展（本部、東京都支部）
- ・神奈川県野生動物リハビリテーター養成事業（神奈川支部）
- ・東京都内にてリハビリテーター養成講習会の開催

ーその他

平成27年度予算案（平成27年1月1日から平成27年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	1,150,000	事業費	
事業収入	500,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	430,000
委託事業収入	8,800,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	7,260,000
寄付金収入	50,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	20,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	200,000
収益事業収入	150,000	収益事業原価	100,000
		管理費	2,300,000
		租税公課（消費税）	300,000
当期合計金額	10,650,000	当期合計金額	10,650,000
前期繰越収支差額	35,704,549	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	35,704,549

WRV・役員の再任および新任について

本年3月と4月に行われましたWRV総会および理事会におきまして、役員等の再任ならびに新任の承認がなされました。以下にその名簿を掲載いたします。任期は2年となっておりますので、会員各位におかれましては、以後改めてよろしくお願い申し上げます。
(それぞれ五十音順で記載)

会 長	新妻 勲夫 (新妻動物病院 院長)
副会長	大窪 武彦 (おおくぼ動物病院 院長)
副会長	小松 泰史 (新ゆりがおか動物病院 院長)
理 事	加藤 卓也 (日本獣医生命科学大学 助教)
理 事	田向 健一 (田園調布動物病院 院長)
理 事	中津 賞 (中津動物病院 院長)
理 事	馬場 國敏 (馬場総合動物病院 院長)
監 事	倉林恵太郎 (倉林動物病院 院長)
監 事	町田 忠彦 (町田家畜病院 院長)

上記のうち、新たに理事にご就任いただいた加藤卓也先生より、新任のご挨拶を頂戴しましたので、次ページに掲載させていただきます。

WRV・各支部役員の一覧

現在、それぞれ活動を展開しているWRVの支部、およびその役員について、以下に掲載します。会員各位におかれましては、改めてご確認いただければと存じます。

●東京都支部	支 部 長：新妻勲夫 (新妻動物病院 院長) 副支部長：大窪武彦 (おおくぼ動物病院 院長) 監 事：倉林恵太郎 (倉林動物病院 院長)
●神奈川支部	支 部 長：馬場國敏 (馬場総合動物病院 院長) 副支部長：中馬昌平 (中馬動物病院 院長) 事務局長：皆川康雄 (野生動物ボランティアセンター 所長) 監 事：羽山伸一 (日本獣医生命科学大学 教授)
●岐阜県支部	支 部 長：大塩哲也 (おおしお動物病院 院長) 事務局長：杉田泰朗 (杉田動物病院 院長)
●大阪支部	支 部 長：中津 賞 (中津動物病院 院長)
●宮崎支部	支 部 長：隅田賢峰 (隅田動物病院 院長)
●鹿児島支部	支 部 長：玉井勘次 (たまひ動物病院 院長)

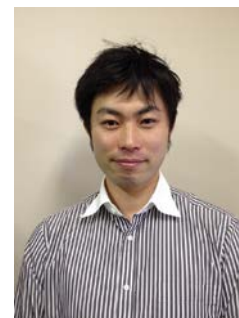
上記のうち、鹿児島支部はこの5月に誕生したばかりですが、その支部長にご就任いただいた玉井勘次先生より、新任のご挨拶を頂戴しましたので、5ページに掲載させていただきます。

WRV理事就任のご挨拶

日本獣医生命科学大学 加藤 卓也

この度、新たに野生動物救護獣医師協会の理事に就任いたしました。日本獣医生命科学大学 獣医学部 野生動物学教室の加藤卓也と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

本学の獣医学科野生動物学実習においては、傷病野生鳥獣救護ならびに油汚染事故対策水鳥救護に関連したプログラムにご協力いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。本稿では、自身のこれまでの歩みとともに今後の抱負を述べたいと思います。



学生時代、身近な野生動物の救護に興味があり、タヌキの交通事故死の実態把握を卒論研究のテーマにしたいと考えていました。しかし、十分に準備を進めることができず、残念ながら実施には至りませんでした。一方、神奈川県では1980年代後半からアライグマの野生化が確認され、当時まさに全県的な対策の取組みが始められようとしているところでした。このような機会に恵まれ、神奈川県における野生化アライグマの問題へと足を踏み入れました。まず現場に関わることから始めることとなり、三浦半島に通いました。卒論研究として野生化アライグマの繁殖特性に関する研究を進めつつ、現場において様々な問題、たとえば在来生物モニタリング、効果的かつ安全な捕獲方法、住民意識（被害感情とアニマルウェルフェア）、感染症対策について学ぶことができました。

卒論研究をさらに発展させたいという思いから、日本獣医生命科学大学大学院へ進学し、「神奈川県で野生化したアライグマ (*Procyon lotor*) の性年齢構成およびメスの繁殖特性に関する研究」というテーマで学位を取得しました。本研究における解剖調査の結果として、神奈川県の野生化個体群は、北米の個体群に匹敵する妊娠率と産子数を示し、出産時期は他地域のものと比べて非常に長く温暖な気候への適応が示唆される、などの知見をまとめました。また、集中的な捕獲の実施で生息密度が低下し、密度依存的な妊娠率低下が起きる可能性を見出しました。現在、神奈川県では、これらの研究成果が防除実施計画に活用されるとともに、捕獲個体のモニタリングが継続されています。

さて、私が現職に着任して4年が経ちますが、その間に台湾では2013年7月にイタチアナグマで狂犬病が発生しました。我が国では、2013年1月に人での国内初発事例をみた重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウイルスについて、その後の調査から保有マダニが全国各地に存在し、シカ等の野生動物からも同ウイルスの抗体が発見されました。近年の報告では、1400種を超える人の病原体のうち約6割が人と動物の共通感染症 (ズーノーシス) であり、既知の新興・再興感染症177種のうち130種 (73%) がズーノーシスであることが示されました。ズーノーシスで野生動物が感染源に存在する場合、感染源の特定および感染経路を明らかにすることが効果的な感染防除のために求められます。ところが、様々なズーノーシスの病原体あるいは抗体が野生動物から検出される一方で、感染経路の把握に必要な動物の生態学的情報や人との関わり方に着目した調査研究は、国内ではあまり進められていません。

現在、私たちのグループでは、先述した外来動物の生物学に加えて、中型食肉目の種間関係に着目した研究をスタートさせています。その一つとして、赤外線カメラによって、各動物の季節的・時間的な活動特性を継続的に観察し、また、動物種間での撮影間隔に着目して伝播リスクを検討するといった試みを行なっています。この取組みとは別に、野生動物を対象とした病原体検出モニタリングも重要です。野生動物が傷病の事由で救護される時、その背景にある問題を知り得るのは現場に携わる方たちだけです。台湾で野生動物から狂犬病が発生したにもかかわらず迅速な対応が行われた理由として、当時すでにモニタリング体制が整っていたからだとも言われています。傷病野生鳥獣の救護の意義は、目前にある命を救い、環境の保全にも寄与することに加え、人と動物の健康維持を見据えた科学的モニタリングのための最前線としての活躍にも見出すことができます。傷病野生鳥獣の救護活動の新たな局面について、ご理解ご協力いただければ嬉しく存じます。

以上を持ちまして、私からの挨拶に代えさせていただきます。本会の発展に貢献するべく日々精進いたしますので宜しくお願い申し上げます。

野生動物救護獣医師協会・鹿児島支部の設立にあたって

たまい動物病院 院長 玉井勘次

はじめに

このたび、野生動物救護獣医師協会(WRV)鹿児島支部を立ち上げることとなりましたので、WRV 会員の皆様にご報告と、自己紹介をさせていただきます。

私と傷病鳥獣救護の関わりは、鹿児島大学1年生だった1999年にWRV 宮崎支部が主催した水鳥救護研修に参加したのが最初です。その後、日本野生動物医学会学生部会とその鹿児島大学支部の創立に関わり、カリフォルニア州のいくつかの施設での水鳥救護研修やハンドウイルカでの卒論研究を経て、よこはま動物園ズーラシアに就職しました。2年3ヶ月の勤務を糧に、鹿児島市平川動物公園に移って7年間勤務、傷病鳥獣救護の現場で臨床経験を積むことができました。平川動物公園在職中は、勤務外で鹿児島市喜入でのフィリマングースの発見と防除や、野生動物の調査研究への獣医学的なサポートの提供など、治療とは別の側面でも野生動物の保全に関わりましたが、同時に動物園という組織の限界を強く感じたのも事実です。2014 年末をもって平川動物公園を辞し、2015 年5月8日にたまい動物病院を開院しました。イヌ・ネコおよびエキゾチックコンパニオンアニマル全般を診療対象とした動物病院ですが、引き続き傷病鳥獣救護や野生動物についての教育普及に携わってまいります。これまでにWRVの支部がなかった鹿児島で、科学的・合理的な救護のあり方を構築していきたいと考えています。



鹿児島の現状と課題

「鹿児島」は九州南部から南西諸島まで南北600kmにわたって広がる、地形も植生も非常に多様な地域です。

島嶼部はアマミノクロウサギやトゲネズミ、ルリカケス、アマミヤマシギなど数多くの固有種・固有亜種を有するとともに、その中には多くの絶滅危惧種も存在します。交通事故や外来生物（ノネコ・マングースなど）による捕食や傷害は、彼らにとって大きな脅威であり、傷ついた状態で保護されることも少なくありません。

また、渡り鳥にとっても重要な繁殖地・越冬地・中継地ではありますが、その多くはヒトとの距離が相対的に近いため、人為がからんだ事故が絶えません。特に、ナベヅル・マナヅルの世界最大の越冬地・出水は給餌とねぐらの設置による人為的な集約によるため、鳥インフルエンザの発生や電線との接触事故が生じています。他にもクロツラヘラサギにおけるテグスによる絞扼、ヤイロチョウの巣破壊などにも遭遇しています。

現時点では大規模な油流出事故による野鳥の暴露事例は発生しておりませんが、海上交通が盛んな土地柄、将来の事故に備える必要もあります。

鹿児島における傷病鳥獣救護

鹿児島における傷病鳥獣救護は、鹿児島県から公益社団法人鹿児島県獣医師会に委託されています。鹿児島県獣医師会に所属する協力動物病院（2014 年度 28 施設）が診療にあたるというのが正規のルートですが、実際には地元の動物園である鹿児島市平川動物公園に市民から直接搬入されることや、鹿児島県からの依頼を受けて移管されることもあります（年間40件ほど）。

おわりに

特異で貴重な生物相をもつ鹿児島においては、傷病鳥獣救護が直接的に希少種の保護に資する局面が他地域よりも多く生じます。しかしながら、獣医学科（学部）を有する鹿児島大学では野生動物医学の地位はいまだ低く、行政は野生動物と市民の接触を忌避するのみで、傷病鳥獣救護についての啓発は、市民へも獣医師へも著しく不足しています。平川動物公園に在職中も、傷病鳥獣救護の正式な委託がある訳ではないため、公に協力動物病院間での情報共有や技術向上をはかることはできませんでした。このたび、独立開業しWRVに支部として加えて頂いたことから、病院の自己満足や行政のアリバイづくりに終わらない、地域の野生動物保全に真に寄与する傷病鳥獣救護を実現したいと考えています。

16 年前の宮崎で、隅田先生、野村先生、馬場先生の蒔かれた種が、遠く離れた鹿児島の地で芽吹いております。この芽が大きく育ちますよう、WRV 諸先輩のご指導ご鞭撻、どうぞよろしくお願いいたします。

施設紹介

山梨県鳥獣センター



山梨県鳥獣保護センター 鳥獣保護普及課 齊藤 次郎

〒400-0001 山梨県甲府市和田町 3004-1

TEL・FAX(055)252-9161

E-MAIL tyoujuu@y-zouen.jp

【山梨県鳥獣センターについて】

山梨県鳥獣センターは、甲府市の北側に広がる山林のうち、山梨県が管理する 2,500 ヘクタールに及ぶ「武田の杜」の中に位置し、鳥獣保護思想の普及と高揚をはかることを目的に昭和 51 年 5 月にオープンしました。当センターは平成 18 年度に指定管理者制度を導入し、現在は山梨県造園建設業協同組合が管理・運営を行っています。施設は一般の方も見学することができ、展示室、キジ舎、小鳥舎、水鳥舎、クマ舎などの施設があります。現在常勤職員 2 名、非常勤職員(獣医師)1 名、アルバイト 1 名、及びパートタイマー2 名の計 6 名体制で運営しております。



鳥獣センター1号館入口



救護室で給餌を行う帝京科学大生

【業務内容】

・鳥獣保護業務

一般の方や県、市町村担当課などから傷病鳥獣が運び込まれます。当センターではシカやイノシシなど有害獣として登録されているものは受け入れをおこなっておりません。保護ケージは、小さいものから大きいものまで合わせると 60 以上ありますが、春から秋の間は不足がちになります。職員は常時 2 名勤務していますが、その人数だけでは施設を回すことが大変です。そのため、帝京科学大学の学生や一般の方々のボランティアに支えてもらっています。鳥獣保護業務の中で、インターンシップや職場体験実習を受け入れており、山梨県内の中高生、日本大学や東京コミュニケーションアート専門学校の学生たちも訪れます。

- ・普及啓発活動業務

より多くの人たちに鳥獣センターの活動を知っていただくために、当センターではおよそ月に1回のイベントを行っています。施設外でもイベント等に鳥獣センターのブースを出して普及啓発業務を行い、「武田の杜だより」を発行して、多くの人たちに認知していただけるような取り組みを行っています。

- ・野生鳥獣写真コンクールの実施

当センターでは野生鳥獣の写真を通して、自然との共生や野生動物の保護啓発活動、自然保護について

理解を深めてもらうために、毎年度野生鳥獣写真コンクールを実施しています。全国各地から多くの方々がご応募してくださり、今年度で第19回目を迎えます。



写真コンクール作品を展示している1号館展示室

【野生鳥獣の保護状況】

昭和51年度から平成26年度までの保護実績は合計で11,089個体(うち鳥類10,117羽、獣類972匹)となっています。保護原因はさまざまですが、鳥の場合は猫による被害や誤認保護による保護依頼、獣の場合は疥癬症の被害の拡大や交通事故による保護依頼が多くあります。

保護される野生動物は、山梨県内で観察される野生動物が大部分ですが、台風が県内を通過すると、オオミズナギドリ等が保護されることがあります。

過去3カ年度の保護状況

区分	鳥類		獣類		合計		
年度	保護個体数	放鳥数	保護個体数	放獣数	保護個体数	放野数	リハビリ中
平成24年度	494	215	29	8	523	223	32
平成25年度	307	66	35	8	342	74	35
平成26年度	294	96	49	5	343	101	42

- ・平成24年度はオオミズナギドリの繁殖シーズンに台風がぶつかったため、数多くのオオミズナギドリ等が山梨県で保護されました。
- ・平成25年度は当センターでは初となるホンドテンが保護されました。
- ・平成26年度は疥癬症による保護が多くありました。

最後になりますが、鳥獣センターは年末年始と休館日(毎週月曜日、休日の場合は翌日)を除いて午前9時から午後5時まで開館しています。山梨にお越しの際には是非お立ち寄りください。

福島県鳥獣保護センター

福島県自然保護課・鳥獣保護センター職員一同

1. 福島県鳥獣保護センターの役割

福島県鳥獣保護センターは、傷病野生動物の救護活動を行うために、昭和57年に開設されて以来、県内各地から搬送されてきた傷病野生動物の治療及び野生復帰などの救護活動を行ってきました。

近年、人間のライフスタイルや産業構造などの社会状況の変化により野生動物を取り巻く環境は大きく変化し、野生動物の生息が脅かされるようになった一方で、野生動物の市街地への出没や恒常的な農林水産業被害の発生等により、人とのあつれきが問題になってきて、野生動物を専門に扱う鳥獣保護センターに求められる役割は傷病野生動物の救護活動にとどまらず、拡大・多様化してきています。

また、福島県においては、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、放射性物質が野生動物や生態系に対しどのような影響を与えるのか、今後、長期的に継続して調査する必要性が生じ、野生動物への対応がますます困難かつ複雑になっているところです。

現在、県から委託を受けた外部団体が、鳥獣保護センターの運営及び野生鳥獣の保護・治療を行っていますが、今後、鳥獣保護センターに求められる役割が広がる中、体制の整備が急務となっています。



2. 傷病野生動物の救護活動

(1) 鳥獣保護センターにおける救護数と野生復帰率の推移 (単位：頭羽)

鳥獣保護センターの保護状況推移							
	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
保護 数	鳥類(羽)	207	209	168	175	117	118
	獣類(頭)	55	59	70	65	49	51
	計(頭羽)	262	268	238	240	166	169
野生 復帰	鳥類(羽)	52	62	58	66	34	37
	獣類(頭)	19	21	19	18	18	13
	計(頭羽)	71	83	77	84	52	50
	復帰率	27%	31%	32%	35%	31%	30%

鳥獣保護センターには年平均220件あまりの、弱ったり、怪我をした野生動物が運び込まれ治療を受けますが、その内の約30%が無事に野生に帰って行きます。

【ダイサギの保護治療 (H27年2月21日保護)】

平成27年2月21日、一般の方が川原を散歩中にトラバサミ(※)に左脚を挟まれたダイサギを発見・保護し、そのまま抱えて鳥獣保護センターに運び込んできました。

左肢第四指が完全骨折していましたが、幸いに、出血もあまりなく起立できていたので、麻酔をかけ左肢第四指を切断、強制的に給餌を行い体力の回復を待ちました。

10日後、収容箱を開けると綺麗に飛び立ち、無事、野生へと帰って行きました。



※トラバサミ：狩猟用具でトラバサミを使った狩猟は法律で禁止されています。この件について、ダイサギの保護・治療と同時に警察等、関係機関への通報を行いました。

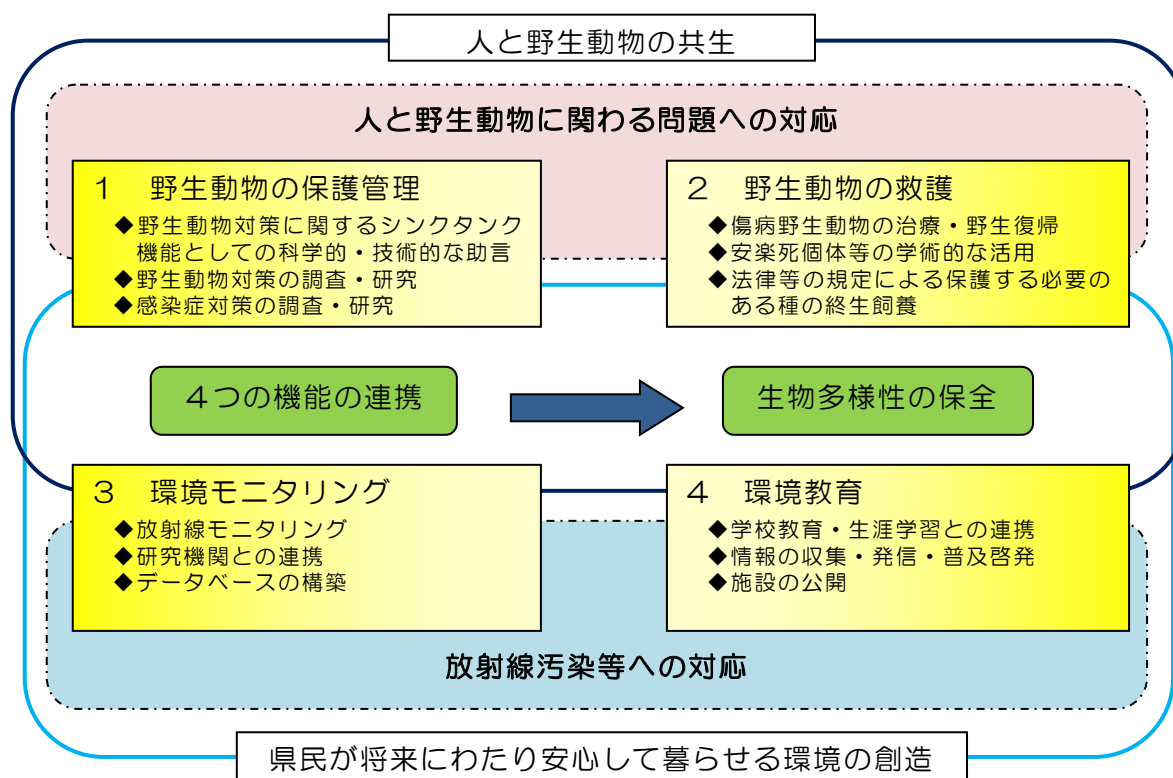
(2) 救護体制

鳥獣保護センターには常勤の獣医師1名と動物管理員3名が交代で勤務し、365日傷病野生動物の治療にあたっています。その他に、動物病院を開業されている獣医師1名が非常勤として治療の協力を行っています。

また、県内で動物病院を開業されている獣医師の方に、野生動物の保護・治療に御理解をいただき、「ERドクター」として登録、初期治療の協力をお願いしています。

3. 鳥獣保護センターの方向性

鳥獣保護センターに求められる役割が拡大・複雑化する中で、次の4つの機能の連携により、人と野生動物の共生をはじめとした「生物多様性の保全」を目指し、鳥獣保護センターの体制を整備検討しているところです。



◆平成27年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」◆

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVでは、(公財)日本鳥類保護連盟及び(公財)日本野鳥の会との共催により、平成27年度もこれまでと変わらず、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を実施致しております。

本年度のキャンペーンに関して、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、それぞれ以下の通りとなっておりますが、今回は昨年をさらに上回り、これまでで最も多い47団体となりました。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただいておりますが、昨今の厳しい経済情勢の中、多大なるお力添えを賜わり、誠にありがとうございました。ここに、改めて深く感謝申し上げます。

<ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト> (47団体：五十音順)

公益社団法人 愛知県獣医師会
公益社団法人 石川県獣医師会
一般社団法人 茨城県獣医師会
おおくぼ動物病院
公益社団法人 大阪府獣医師会
公益社団法人 北九州市獣医師会
公益社団法人 京都市獣医師会
株式会社 キリカン洋行
国際動物専門学校
公益社団法人 静岡県獣医師会
高尾霊園犬猫墓地
東京環境工科専門学校
公益財団法人 動物臨床医学研究所
中津動物病院
公益社団法人 新潟県獣医師会
公益社団法人 日本獣医師会
一般社団法人 兵庫県獣医師会
公益社団法人 北海道獣医師会
一般社団法人 宮崎県獣医師会
ムナテックス 株式会社
野生動物ボランティアセンター
公益社団法人 山口県獣医師会
株式会社 吉元
公益社団法人 和歌山県獣医師会

公益社団法人 秋田県獣医師会
イソップ薬品 株式会社
一般社団法人 岩手県獣医師会
公益社団法人 大阪市獣医師会
大宮国際動物専門学校
公益社団法人 岐阜県獣医師会
公益社団法人 京都府獣医師会
公益社団法人 神戸市獣医師会
公益社団法人 滋賀県獣医師会
NPO 法人 自然環境アカデミー
公益社団法人 千葉県獣医師会
公益社団法人 東京都獣医師会
公益社団法人 栃木県獣医師会
公益社団法人 名古屋市獣医師会
新妻動物病院
公益社団法人 日本動物病院協会
文永堂出版 株式会社
公益社団法人 三重県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク
森久保薬品 株式会社
野生動物リハビリテーター協会
公益社団法人 横浜市獣医師会
予防医学教育研究所

会員の皆様には、前号のニュースレターとともに既にポスターをお送りさせていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、今後ともその普及啓発のためにご協力いただければ幸いに存じます。

身近な野鳥を始めとする野生動物の生息状況や生息環境については、様々な研究者による調査結果等を見ましても、決して好ましい方向に向かっているとは言えない模様です。

WRVでは、そうした現状に対してできる限り対応を図るべく、永続的に活動を展開していきたいと考えております。また、傷病野生鳥獣の救護活動につきましても、より一層の尽力をしまいる所存ですので、皆様のご支援とご協力を、これからもよろしくお願い申し上げます。

金坂 裕 先生・環境省自然環境局長賞を受賞



去る5月10日(日)に虎ノ門ヒルズフォーラムで開催されました「第69回愛鳥週間・全国野鳥保護のつどい」におきまして、金坂裕先生が、環境省自然環境局長賞の受賞により表彰されました。

金坂先生は、千葉県千葉市内に「バードクリニック金坂動物病院」を開業され、既に36年間の長きにわたり、傷病鳥獣の救護や野生復帰活動に貢献され、同時に千葉県の指定獣医師として、一般の方々への鳥獣保護思想の普及啓発活動にも尽力されてまいりました。一方で、各学会や関係団体の機関紙等に論文や臨床事例報告等を数多く発表されるとともに、各地での講習会や研修会等の講師として、現場における豊富な経験をもとに、獣医師をはじめ傷病鳥獣の救護活動従事者に対して、専門的な教育指導も展開してこられました。今回はそうした長年の実績に対して、「野生生物保護功労者」としての高い評価のもと、環境省より表彰される運びとなった模様です。

金坂先生には、かつてWRVの理事も務めていただき、また現在でも「野生動物リハビリテーター養成講習」等の講師をご担当いただくとともに、千葉県や関東圏のみならず、全国各地の傷病鳥獣の救護に関する相談、特に対応がかなり難しい事例や特殊な事例等についても、その都度ご相談にのっていただいております。日頃から感謝の念にたえません。ここに改めて御礼の意を表しますとともに、この度の受賞を、心よりお祝い申し上げます。

終わりに、金坂先生の益々のご活躍とご発展をお祈りいたしますと同時に、今後のWRVへのご指導ならびにご協力を、改めてお願い申し上げます次第です。

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者(敬称略) (平成27年3月1日から平成27年5月31日)

○寄付金(一般) 2015.3.18 中村富士子 10,000 円

○寄付金(一般) 2015.5.31 東京港野鳥公園フェスティバル(募金箱) 2,340 円

○神奈川支部寄付金

2015.3.4 地球はともだち 23,000 円 2015.3.4 神奈川県野生動物リハビリテーター 4,000 円

2015.3.22 夢見ヶ崎動物公園春の動物園まつり(募金箱) 1,743 円

2015.3.22 神奈川県野生動物リハビリテーター 1,800 円

2015.4.26 宍戸沙桜里 2,000 円 2015.4.26 大木功士 2,000 円

2015.4.26 半田瞳 2,000 円 2015.4.26 内田和宏 2,000 円

2015.4.26 二階堂仁美 2,000 円 2015.4.26 植松聖 2,000 円

事務局日誌 2015.3.15～2015.6.13

=== 3月 ===

15: 麻布大学卒業式(麻布大学)

出席: 新妻

22: 春の動物園まつり(夢見ヶ崎動物公園)[神奈川支部]

対応: 皆川

23: 東京都小動物獣医師会 総会(吉祥寺東急イン)

出席: 新妻

23: 第24回わいわいサロン(神奈川県野生動物リハビリテーター交流会)[神奈川支部]

対応: 皆川

25: WRV ニュースレターNo.92 発行

28: 平成27年度WRV総会(立川事務所)

出席: 新妻、皆川、小松、倉林、小森、寛、箕輪、曾根

28: 平成27年度WRV東京都支部総会(立川事務所)

出席: 新妻、小松、倉林、小森、寛、箕輪、曾根

28: ミゾゴイ(傷病個体)のガイド(横浜市立野毛山動物園) [神奈川支部]	対応: 皆川
=== 4月 ===	
01: 平成27年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」スタート	対応: 箕輪
01: 平成27年度「水鳥救護研修・情報整備事業」契約締結(環境省)	対応: 曾根
02: 平成26年度「水鳥救護研修・情報整備事業」報告書 提出(環境省)	対応: 曾根
10: WRV事業打合せ(東松山市)	対応: 新妻、箕輪
13: JEDIC理事会((公社)日本海難防止協会)	出席: 箕輪
17: 練馬区青色申告会指 導部委員会(練馬事務所)	出席: 新妻、町田
22: 平成27年度かながわ環境教室学校派遣事業登録(神奈川県庁) [神奈川支部]	対応: 皆川
26: 平成27年度東京環境工科専門学校インターン生受入(野生動物ボランティアセンター) [神奈川支部]	対応: 皆川
=== 5月 ===	
02~6/28: 企画展「かながわの川 NOW!」(神奈川県自然環境保全センター) [神奈川支部]	対応: 皆川
03: WRV鹿児島支部設立(理事会にて承認)	承認: WRV理事会、支部長: 玉井
05: ミゾゴイ(傷病個体)のガイド(横浜市立野毛山動物園) [神奈川支部]	対応: 皆川
09: 野生動物リハビリテーター養成講習会実習編<東京会場>(東京環境工科専門学校) [神奈川支部]	対応: 皆川
10: 動物慰霊祭(フレサ吉見)	対応: 新妻
11: 練馬区青色申告会 理事会(練馬事務所)	出席: 新妻、町田
16: 川崎市立夢見ヶ崎動物公園におけるリハビリテーター活動開始(夢見ヶ崎動物公園) [神奈川支部]	対応: 皆川
22: 旭川市旭山動物園訪問	対応: 箕輪
23: 札幌市・石山通り動物病院(斎藤聡院長) 訪問	対応: 箕輪
23: 神奈川県野生動物リハビリテーターのための施設見学会(横浜市立よこはま動物園) [神奈川支部]	対応: 皆川
24: 釣り針・釣り糸調査(アユ釣り解禁前の実態調査)(多摩川河川敷) [神奈川支部]	対応: 皆川
25: 第25回わいわいサロン(神奈川県野生動物リハビリテーター交流会) [神奈川支部]	対応: 皆川
28: 第24回青色申告会定期総会(勤労福祉会館)	出席: 新妻、町田
30: 神奈川県野生動物リハビリテーターのための施設見学会(横浜市立金沢動物園) [神奈川支部]	対応: 皆川
31: 第3回東京港野鳥公園フェスティバル(東京港野鳥公園) [東京都支部]	対応: 新妻、曾根、箕輪
=== 6月 ===	
04~8/31: 企画展「海の生き物 SOS! 展」(横浜市立よこはま動物園) [神奈川支部]	対応: 皆川
06: 麻布大学同窓会理事会、代議員会	出席: 新妻
06: WRV会計に関する打合せ	小森、箕輪
06: 野生動物リハビリテーター養成講習会実習編<東京会場>(東京環境工科専門学校) [神奈川支部]	対応: 皆川、曾根
06: ドリームナイトイベント(横浜市立野毛山動物) [神奈川支部]	対応: 皆川
11: 環境省水鳥救護研修センター・運営協議会	出席: 新妻、大窪、箕輪、曾根
11: 神奈川県立旭陵高校出前講義 [神奈川支部]	対応: 皆川

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 93 2015.6.25 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 小松 泰史 編集担当: 箕輪 多津男
